

## 如何なる美術館が必要か？(上)

黒田清輝

美術館建設問題はこの間から餘程喧しい問題となつて来て居るが、これも機運といふものであらうが吾々にとつては大いなる幸ひといはねばならぬ。この機運に乗じて行れば、必ず吾々の理想の幾分かは行はれるだらうと思ふ。私は理想の幾分といふ。それは急速に其の大部分が行はれやうとは思へぬからだ、然しながらこれは或る時期を待つて行はれなければならぬ問題である。

それ故に、今私は茲に理想的美術館と、現代が目前要求する美術館とを區別して置きたいと思ふ。

理想の美術館と言つても一口に話せば何でもない事である。即ち世界並の設備が日本に欲しいといふ事である。世界各國特に世間から一等國と言はれて居るやうな處では、日本のやうに美術國と人も唱へ、自分も誇るやうな國で無くとも一通り各種の美術館は設備されて居るのである。といふのは、美術といふものが日本では従來實際上は在つたものではあるけれども問題として扱はれるやうになつたのは極く近代の事である。然るに外國では初つからさういふ立場で美術を見て居るものはない。美術といふものは無ければならぬといふ頭腦あたまが總ての人にあらう。上は一國の主宰者から政治家、學者までもこの問題に興味を持つて居る。そればかりではない一般民衆が美術を口にする事も普通の事である。斯の如き有様であるから、何れの國を巡つても美術館の目に映じぬ所はないのである。

美術館の如きは一國の國立建造物として缺くべからざるものである。例へば一家に床の間が必要と同様であつて、是れ無くては一國の體裁をなさないとも言へるので、今は喧しく必要、不必要を論ずる場合ではない。

然し、我國は外國とは稍々事情が異つて居り、諸般の建設といふ事が新しく維新以後に興つて、漸時に世界向きに總てが整つて行きつゝあるのである。斯の如き時勢にあるから美術館建設問題も久しい以前からの宿題となつては居るが中々實現されなかつたのである。然るに前に述べたる如く、目下建設を提唱する聲が高くなつて居る時であるから、如何なる物が必要かといふ問題を論じる事も無意味の事ではあるまいと思ふ。

如何いふ種類の美術館が必要かといふ問題に對しては、何れを前にし後にするといふ事は出来ないのである。各種の美術に對して各種の美術館が必要であるのだから、これこそは不必要だといふものゝ無いのは當然である。従つて何が一番必要であるといふ事的選擇にも鳥渡困る次第であるが、美術の根本をなして居るものは、其の國の從來の歴史ある美術であるから、これを陳列する館を建設する事が必要である。それから其の歴史ある美術にも自ら新古の別があるから、これも系統的に陳列するの必要ある事は勿論である。それに次では外國の美術を集める事である。何故ならば、今日のやうに殆ど各種の國と界を接して並立して居る時代には、外國のものも大に参考とし又研究しなくてはならぬからである。そして又國の内外を問はず、回顧的に美術を研究するといふ目的を持つて居る美術館も必要であらうし、又現代の美術を奨励するといふ目的の陳列館も必要であらう。又美術品の各種に亘つて其の種類を區別して研究資料とするといふやうな所も必要であらう。斯く言つて來ると一時にどれも必要であるといふ事になる。